

天白区マスコットキャラクター

『かぼつち』

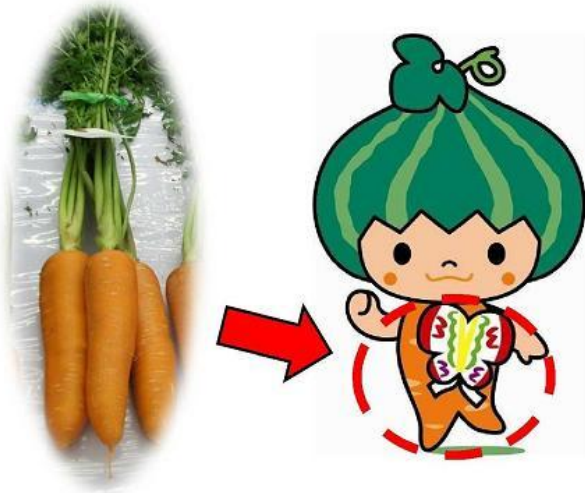
「かぼつち」は天白区制40周年を記念して平成26年に誕生した天白区のマスコットキャラクターです。

頭は天白区の地元野菜「くりあじかぼちや」、体は「八事五寸にんじん」をモチーフにしたキャラクターです。

胸元には、伝統玩具の「八事の蝶々」をつけています。

八事五寸にんじん ～ 昭和のハイカラ人参

「八事五寸にんじん」は、大正8年に天白区の農家が、東京の種苗会社から導入したニンジンの種から選抜したのがルーツとされています。当時、市場での評判がとても良かったので、産地では生産を徐々に増やし、昭和初期には、東京や大阪の市場を始め、香港にも輸出されていたそうです。



現在、市内での生産は当時ほど盛んではありませんが、愛知県にゆかりの深い野菜として「あいちの伝統野菜」にも選ばれています。

八事五寸にんじんの特徴は、色が濃く、肉質が良く、甘みが強く、味付きが良いことです。煮てもサラダでもおいしい、昔ながらの八事五寸にんじんを、ぜひお召し上がりください。

くりあじかぼちゃ ほくほく・うまうま

「くりあじかぼちゃ」は、栗の実を逆さにしたような、お尻のどがった特徴ある形をしたカボチャです。カボチャには、表面のゴツゴツの多い「日本カボチャ」と少ない「西洋カボチャ」とがあります。くりあじかぼちゃは、えびすかぼちゃと同じ西洋カボチャの一種で、ホクホクした食感と甘さが特徴です。カボチャは、国内各地で栽培されたり、季節によって海外から輸入されているので年中出回っていますが、夏が旬の野菜です。甘みがありホクホクした食感で、子どもにも人気の緑黄色野菜です。



伝統玩具 ～ 八事の蝶々

「八事の蝶々」は、竹と、赤、黄、橙、緑、紫で色付けされた和紙で作製する郷土玩具です。明治の初め頃から昭和の初めにかけて、寺社の門前や八事遊園地（大正元年、のちの名古屋市電となる尾張電軌鉄道により造られた）など八事地域で作成・販売されてきました。考案者は明治の初期、禄を失った元士族の前田柳三右衛門です。しかし戦後は次第に姿を消し、資料や人々の記憶に残るだけのものになりました。昭和50年頃に、かつて天白区にお住まいだった加藤かなさんが、幼い頃の記憶を頼りに地元の幼稚園の子ども達のために作ったことを端緒として配り始め、その後、多くの人に作り方を伝え、平成14年6月には保存会が立ち上がりました。

保存会の皆さんは作製方法を保存・

継承するため、地域の集会施設などで講習会を開催したり、幼稚園、

高齢者福祉施設での作製体験や小中学校の総合学習での指導、継承活動などに尽力しています。ま

た、ひとり暮らしの高齢者を訪ねる





「友愛訪問」の際に持参したり、各種イベントにおいて配布する
など、作製体験やPR・普及活動を行い、多くの人々に
八事の蝶々づくりを伝えています

名古屋市ホームページを基に作成しています